

村林総領事離任挨拶



▲アボット・テキサス州知事と



▲ステイト・オクラホマ州知事と

テキサス州のみという点からも、その政治的重要性が高まっていることがうかがえます。経済的な勢いはもっと顕著であり、テキサス州のGDPは国レベルで比較して9位から8位に上昇し、G7メンバー国のイタリアやカナダをしのぐ規模になっております。余談ですが、私の在任中、大リーグのワールド・シリーズで1年目はヒューストン・アストロズ、2年目はテキサス・レンジャーズが優勝しており、野球でもテキサスの勢いを堪能できたのは野球好きの私にとって嬉しいことでした。



▲日米フレンドシップナイトで始球式

日本とテキサスの関係にも同様の勢いを感じております。テキサス州から日本への輸出額は2015年から2022年の間に3倍近く増えており、特に石油・天然ガスの輸出額はこの間に10倍以上に増え、エネルギー、特にLNGの供給先としてのテキサスの重要性が増してきております。また、テキサス州進出の日本企業数も大幅に伸びており、2015年に300社程度であったものが2020年には450社近くに達し、その後のコロナ禍での停滞を経ても2022年時点で450社

2021年10月に在ヒューストン総領事を拝命し、11月に着任したタイミングで当地ではコロナ禍で中止されていた各種行事が再開されたことから、できるだけ顔を売って人脈を構築しようと可能な限りいろいろな行事に出席するため広大な管轄地を飛び回ってきましたところ、あっという間に2年半が経ち、この3月末で帰朝することになりました。その間、ヒューストン日本商工会をはじめ在留邦人の皆様には公私にわたって大変お世話になりました。

当地在任中に最も強く感じたことは、テキサスの勢いです。東海岸や西海岸から企業や人が流入し、移民も流入を続けることにより人口増加率は全米第1位で、2022年の中間選挙から採用された連邦議会下院の議席数が2議席増えたのは

以上を維持しており、この1年の間にはいくつもの企業ミッションが日本からテキサスを訪問していることから、日本企業が増加するトレンドは今後も続くものと思われます。これに伴って、在留邦人数も順調に増えており、在留届で総領事館が把握できるだけでも約14,000人に至っております。

これらの結果、当地における日本の存在感が徐々に高まっていることを肌で感じております。ヒューストン市によれば、同市には93か国が領事を置いており(うち半数は名誉領事)、非常に多様性に富む大都市ですが、日本総領事はほぼすべての国際関係行事やアジア関連行事に招かれ、各国の外交官を代表して基調講演を求められることも多く、最近ではダラスやオースティンといった他の都市圏の日本関連以外の行事でも基調講演を依頼されるようになってきました。これらにできるだけ応えているうちに日本とは関係のない他国の行事にも来賓として招かれるようになり、時にスピーチまでさせられるようになってしまい、着任当初に顔を広げようとしてやり過ぎてしまったと反省しているほどですが、それだけ日本の存在感が高まったと考えればまんざらでもありません。

これだけ政治・社会的にも経済的にも重要性が高まっており、日本との関係も緊密化している地域を管轄する総領事としてこの2年半に大きな手ごたえとやりがいを感じてきました。本当に多くの方々と懇意になり、離任に際してヒューストン市長から名誉市民と親善大使に任命され、オースティン市長とサンアントニオ市長からも名誉市民に任命され、アル・グリーン連邦下院議員からは連邦議会議事堂に掲揚されていた米国旗を贈呈されるといった栄誉を賜りました。このポストをもって私の外交官人生の幕を閉じられることを幸せに思っております。皆様のご支援とご厚情に改めて感謝申し上げますとともに、皆様の今後のますますのご発展とご健康を祈念し、離任の挨拶とさせていただきます。

令和6年3月吉日
在ヒューストン日本国総領事 村林弘文



▲公邸で新年会



▲NASAで宇宙飛行士の皆さんと



▲宇宙飛行士の皆さんと



▲ヒューストンバレエの日本人ダンサーと

目次	1… 総領事離任ご挨拶	4… 特別講演会	7… 三水会クラブ	10… テキサスメディカル
	2… 日本庭園	5… ソフトボール大会	8… 駐妻日記・知っとな	11… 古本市・日本語スピーチコンテスト・議事録
	3… 常任委員アンケート・会社紹介	6… 気ままなフォトアルバム	9… 卒園・卒業式	12… ガルフアンケート予告・Houston Walker・編集後記